

# 2021 年度 研修分科会開催案内

第 4 回  
発行 2021 年 9 月 4 日

第 4 回 開催日時 2021 年 9 月 24 日 (金) 13:00-17:00  
オンライン開催 (Zoom ミーティング)

## 第 4 回テーマ データ・ライブラリアン

研修分科会の後半は、大学図書館の研究支援に目を向けたいと思います。今年 7 月に日本私立大学連盟から『ポストコロナ時代の大学のあり方』\*という提言が発表され、話題になっています。その中(p. 14)で「基準で想定されている専門的職員(第 38 条 3)である司書は図書館機能の多様化に伴って、図書館職員に求められる能力も多様化したため、形骸化している」と書かれています。これに反発する声も聞こえますが、一度真摯に受止め「求められる能力」は何なのか、考えてみましょう。

この提言の文脈では、リサーチ・アドミニストレータといった「専門的職員」をあげていますが、図書館界でもここ数年「データ・ライブラリアン」を目指す方向が起こっています。NII に 2017 年に設置されたオープンサイエンス基盤研究センター (RCOS) は、研究データマネジメント (RDM) を担う図書館員の育成を推進しており、求められる図書館員像の一つが、データ・ライブラリアンかもしれません。

身近な図書館業務になりつつある機関リポジトリも、研究データの公開を目的とした研究支援であると同時に、研究者および機関の評価に寄与するための業務です。すなわち、データの組織化・構造化・保存・共有・公開・再利用を支援することが、図書館の役割となっていると言えるかと思います。

\* <https://www.shidairen.or.jp/files/user/20200803postcorona.pdf>

### Time table

13:00-13:10	今回のテーマについて
13:10-14:30	課題発表
14:40-16:10	講演：オープンサイエンスの基礎知識 田辺浩介氏
16:10-16:50	ディスカッション
16:50-17:00	次回予告

### 講演 オープンサイエンスの基礎知識 国立研究開発法人 物質・材料研究機構 田辺浩介氏

今回はオープンサイエンスの動きと、それを支える技術やスキルに焦点をあてたご講演をお願いしました。物質・材料研究機構で、図書・電子リソース管理システムや研究者総覧、データリポジトリの開発に携わる田辺氏は、データ・ライブラリアンの先駆者です。そもそもなぜオープンサイエンスの動きが始まったのか、オープンサイエンスを取り巻く情報技術、大学図書館がオープンサイエンスに関わる意義など、基礎的なことを教えていただきます。

### 課題 機関リポジトリ業務を知る

各自の大学の機関リポジトリを調べ、所定の Word 用紙に記入します。記入したら、ファイル名を「第 4 回課題\_氏名(大学略称)」の形式にして、開催 1 週間前(9/17)までに 2021kenshu のメーリングリストに添付して投稿してください。(Word の設問 1~4 は残し、下の行に書き込んでください。1 ページに収める必要はありません。)